

紛争からの復興における資源管理の役割

こんな問題に取り組んでいます

紛争により疲弊した地域で、人々が自分たちの力で社会を復興する為には、土地、森林、石油、鉱物等の資源を如何に使うべきか。国際社会による支援のあるべき姿、などを現実の事例に基づいて政策提言する事を、本研究の目的としています

こんなことがわかってきました

紛争が終わった直後の社会では、政府も十分に機能して居らず、資金も十分ではありません。住民同士の諍いを調停するために政府が機能し得ない場合には、伝統的に行われてきた、住民自身による問題解決の手法を適用することも有効な選択肢です。

研究の成果はこんな分野に活かされます

資源を巡る紛争は、他の原因による紛争に比して、再発する割合が高いことが知られています。資源を巡って紛争が起き、その資源により購入された武器が紛争を長引かせるという悪循環から脱するための示唆を、本研究は国際社会に提示します。

連絡先: 東京大学 大学院新領域創成科学研究科 国際協力学専攻
 中山幹康 <nakayama@k.u-tokyo.ac.jp>

